

## 令和4年度 第1回山元町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 令和4年5月6日（金） 午後1時30分から午後2時45分
- 2 開催場所 山元町役場1階 大会議室
- 3 出席者 別紙「出席者名簿」のとおり
- 4 概要 以下のとおり
  - (1) 開会
  - (2) 開会の挨拶
  - (3) 議題
    - ① 教育等の振興に関する施策の大綱（案）について  
資料1に基づき説明（説明者：大和田教育総務課長）
    - ② 小学校再編の進め方について  
資料2に基づき説明（説明者：大和田教育総務課長）
    - ③ 町民体育館改修工事について  
資料3に基づき説明（説明者：伊藤生涯学習課長）
  - (4) その他
  - (5) 閉会

### 【司会：大和田教育総務課長】

ただいまから、令和4年度 第1回山元町総合教育会議を開会いたします。  
開会に当たりまして、山元町長 橋元伸一からあいさつを申し上げます。

### 【山元町長：橋元伸一】

この度、町長に就任しました橋元伸一です。

本日は、今年度第1回目となる総合教育会議に御出席いただきありがとうございます。  
ます。

また、委員の皆様には、本町教育行政全般にわたり、日頃から御理解、御協力を  
賜り厚く御礼申し上げます。

私は、この度の町長選挙におきまして、町民の皆様から御支持をいただき町長の重  
責を担わせていただくことになりました。町政運営に当たり気を引き締めて取り組む  
覚悟です。

私は公約の中で子育て世代の継続的な支援として、小中学校給食費無償化、小学校  
の統廃合は改めて慎重に検討としております。

喫緊の教育課題としていじめや不登校の未然防止、学力向上などがあげられますが、

また、全国的な少子高齢化の中、我が山元町は東日本大震災を機にこれまでの予想を上回る人口減少が一気に進みました。同時に少子化が進んだことにより、小中学校の再編問題は教育行政における重要課題の一つになりました。

中学校は昨年4月に統合されまして山元中学校として開校しました。

今後小学校の統廃合をどのように進めていくのか、慎重に考えなければなりません。教育の主人公は子供たちです。子供たちの将来のためにどう環境を整えていくか、地域と行政が一体となって考え、取り組んでいかなければならないと思います。

本日は、「教育等の振興に関する施策の大綱（案）について」、「小学校再編の進め方について」、「町民体育館改修工事について」、委員の皆さまと意見交換を行いたいと考えておりますので、忌憚のない御意見をいただきますようお願い申し上げ、開会の挨拶といたします。

#### －以下議事－

【司会】（大和田教育総務課長）

ありがとうございました。

それでは、次第に基づき会議を進めさせていただきます。

会議の議長については、運営要綱第4条の規定に基づき、橋元町長にお願いいたしますので、よろしくお願いいたします。

【議長】（橋元町長）

それでは、議長をお預かりしましたので、進めさせていただきます。

議題の(1)教育等の振興に関する施策の大綱（案）について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】（大和田教育総務課長）

はい。それでは、教育等の振興に関する施策の大綱（案）について、御説明いたします。

お配りしております資料1を御覧ください。

現在の町の大綱については、平成30年5月に策定したものであり、本町における大綱の改訂時期については、町長改選時や教育振興基本計画の策定に合わせ、大綱の策定を行うことを方針としております。

昨年5月の第1回 総合教育会議において、第2期山元町教育振興基本計画策定にあたり、基本目標となる大綱については、変更せず、平成30年5月の大綱をそのままを確認し、第2期計画策定に入りました。

第2期計画は、「4つの目標」とそれを実現するための「8項目」の施策の基本方向、25の基本施策、その中から、期間内に重点的に取り組むべき事項として「10の重点事項」を掲げております。

今回提案の大綱ですが、ただいま御説明したように、平成30年の大綱の目標1～目標4はそのままに、今年3月に策定した、令和8年度までの5年間を計画期間とした「第2期山元町 教育振興基本計画」の8つの基本方向をもとに、25の基本施策及び、10の重点事項を盛り込んだものです。

目標1ですが、前回の計画では、1番目に知育分野である、学ぶ力の育成を重点事項の1番目としていましたが、第2期教育振興基本計画策定時の町民アンケートの結果、豊かな人間性や社会性の育成に重点を置くべきとの意見が多かったことから、第2期計画においては、徳育分野の豊かな人間性や社会性の育成を筆頭に、道德教育の推進を重点事項①、いじめ、不登校への対応を重点項目②とした。また、知育分野には、新たな分野であるICT教育の推進を重点事項④として加え、これまで1つの基本方向となっていた徳育、体育を、それぞれ分けて基本方向に位置付け、体育分野として、知育、徳育にもつながる基本的生活習慣の定着を重点事項⑤に、教育活動の充実として、みのりプロジェクト推進事業を重点事項⑥。

また、震災を経験した本町の特色でもある 防災教育を通した命を守る意識の高揚については、基本方向の8として前回のまま引継いでおります。

以上が、目標1実現のための施策です。

目標2として、家庭、地域、学校の連携、協働の推進を基本方向5として引継ぎ、コミュニティスクールの推進と地域学校協働本部の連携を重点事項⑦に、目標3、伝統文化の尊重については、国際理解を育む教育を知育分野へ移動し、目標4、生涯学習、文化、スポーツ活動の推進は前回は引き継いでおります。

以上が、今年度の策定した大綱案の内容となります、よろしくご審議の程お願いいたします。

説明については、以上でございます。

**【議長】**（橋元町長）

ただいま、教育等の振興に関する施策の大綱（案）について、事務局から説明がありました。この件について何かあれば、御意見をお願いいたします。

**【教育委員】**（大内委員）

はい。前の内容とは変わりはないか。

**【事務局】**（大和田教育総務課長）

はい。目標の1、2、3、4はそのままにしてありまして、赤字青字で書いたものが今回の修正です。大きな部分では修正はありませんが、一番前に知育ではなく徳育分野を持ってきて、国際理解の分が目標の3から1に移動しています。

特に大きな変更点はありません。

**【議長】**（橋元町長）

目標の順番が繰り上がったりしているだけで、前回とほぼ同じです。

**【事務局】（大和田教育総務課長）**

目標の1、2、3、4は黒字ですので変更なくそのままです。第二期の教育振興基本計画で示している基本方向等をこの中に盛り込んでおりますので、目標は変わらず中で若干基本計画に合わせて整理しているものです。

**【教育委員】（菅野委員）**

赤字でいろいろ書いてあるんですけども、赤字の部分が前回と違うという話が今あったんですけども、前回とほぼ同じでないのかなと思っておりまして、どの部分が今回確実に変わっているのか、どこなのかがこれではわからない。

**【事務局】（大和田教育総務課長）**

本日渡した(1)ですと、豊かな人間性や社会性という表現なんですけれども、前回の計画ですと徳育分野が体育分野と一緒にしたので、表現としては豊かな人間性や社会性・健やかな身体の育成というふうに徳育と体育と一緒にした表現になっていました。内容的には変わらないんですけども、今回は知・徳・体で分けているので赤字になっています。例えばいじめ不登校については前回の表現はいじめや不登校のない学校づくりとしておりましたが、これが若干表現が違い、(2)の確かな学力の育成については、前回の表現は学ぶ力と自立する力の育成と。目指す内容としては同じですが若干表現が違うものです。

まったく新しいのはICT教育の推進。これは前回の中には入っていませんので新しい項目になっております。

(3)健やかな身体の育成は今言ったように、前は徳育と体育と一緒にしたもので、一緒の表現となっておりました。

(4)教育活動の充実については、前回の計画では信頼され魅力ある環境づくりとして学習環境の整備充実と表現していたもので、内容としては大きな変更はありませんが、表現が若干違っているために赤字となっております。

その中で重点事項⑥のみよりプロジェクト推進事業については前回の計画の後に計画されましたので、新しく加わったものです。

表現が若干違うだけで2ページ目は前回の内容と同じものになっております。

**【教育長】（菊池教育長）**

この大綱のベースになっているのは、基本計画です。改めて第二期に入るということで見直して、頭の部分の目標とかそれに付随する項目の見直しを調査したり見直しをしてきて、それを逆に今回の施策の大綱に抜粋したということです。前回の大綱と比べると変わっているところが多いですが、内容としてはベースになっている振興基本計画ということで、教育のこれからの進め方をよりコンパクトにまとめたというふ

うにとってもらえればいいと思います。

【議長】（橋元町長）

御理解いただけましたでしょうか。最初の説明で前とあまり変わっていないといいながら赤字がいっぱい出てきましたが、内容は変わっていないと。教育長が言ったように第二期の教育基本計画を抜粋したものが提出している資料になっています。よろしいでしょうか。

【委員】（古泉委員）

先ほどの説明の中で目標3には他国の文化の理解を深めるということが書いてありますので、国際理解を育むということを目標1の(2)の中に入れたということですが、目標3のところにも他国の文化の理解を深めるとあるので同じになるのではないかと。

【事務局】（大和田教育総務課長）

そちらについては第二期の教育基本振興計画を作る段階で基本方向が以前の7項目から8項目に移っておりまして、その国際理解の部分については確かな学力の育成の中の子供たちが国際理解を育む教育の部分が大きいということで知育の部分に持っていた部分がありまして、今回の計画についても目標1に割り振りをしたものとなっております。

【教育長】（菊池教育長）

補足しますと、古泉委員さんに言っていただいた目標の3の丸の伝統・文化の尊重と理解の下に、青字部分の最後に外国語による他国の文化理解などということで、この項目の中に残しながらも、国際理解教育として教科の授業などを通してが大きいので、前のほうに持ってきたと。だから両方にまたがっているということです。

【議長】（橋元町長）

その他、御意見等ありますでしょうか。

（「なし」の声あり）

【議長】（橋元町長）

それでは目標1から目標4はそのままに、第二期基本計画に沿った内容に変更することによってよろしいでしょうか。

はい。それでは、「教育等の振興に関する施策の大綱について」は、大綱（案）のとおり改訂することに決定します。

【議長】（橋元町長）

議題の（２）「小学校再編について」、教育委員のみなさまと意見交換をさせていただきたいと思います。事務局から、これまでの経緯について説明をお願いします。

【事務局】（大和田教育総務課長）

それでは資料２を御覧ください。

まず、これまでの経緯について簡単に説明いたします。１ページをお開きいただきたいと思います。町の小中学校の再編方針については平成３０年１２月に策定しました。１０年後を目途に小学校一学区ということが町の再編方針となっています。

再編の必要性としてはクラス替えができる学校規模、複式学級編成は避ける必要があるということを留意点としておりまして、作成を進めるに当たっての留意点としては、地域、保護者、子供たちへの説明理解と小学校再編に伴う校地校舎等の検討を掲げております。

２ページに行きまして４番を御覧いただきたいと思います。

昨年１０月２５日に開催しました総合教育会議での協議確認事項です。(1)小学校再編の検討に入ることにについて、山元町小・中学校再編方針、平成３０年１２月に策定したものと、みのりプロジェクト推進事業「実施計画」に示した事業推進の見通し、４ページになりますが、小・中学校児童生徒数推移から方針を策定した平成３０年度からおおむね１０年後となる令和１１年度を目標に検討に入る時期ではないかということで、総合教育会議で御協議いただきました。その中では新中学校の開校後に小学校再編の検討に入るとしていたところから、令和４年度から検討に入るべきであるということを確認しております。

２点目として策定した方針に基づいて再編を進めることについて、教育委員会として策定した方針そのものを見直さなければならない要素はないと思われる。方針通り進めることでよいのではないか、ということについては、子供の数について定住促進事業などで再編検討時より増えてはいるが、方針を見直すまでは至っていないため、まずは方針に沿って検討を進めるべきであると確認しております。

(3)番としましては、再編を進めるに当たっての主な検討事項について校地・校舎をどうするか、小中一貫校の位置づけをどうするかについては、小中一貫校の考え方によって校地・校舎の位置も変わってくるのではないかと。それぞれが関連しているので十分に検討するべきであると、昨年の１０月２５日開催の総合教育会議で確認をしたところでありまして。以上が現在までの小学校再編の考え方について確認したことになります。以上で説明を終わります。

【議長】（橋元町長）

説明が終わりました。４(4)は今後の予定の案ということですね。

このことに関しましては、私自身は公約の中に入れてましたが、決して一つにしては

だめだということではなくて、統合計画について改めて皆さんに検討をしていただきたいと思います。それだけではなく、それはなぜかといいますと、保育所とか幼稚園、小中学校、教育施設というものは、地域の歴史と文化に大きく影響していきまして、地域の核となっている部分も大きいと考えます。皆様もこれまでの検討委員会でそれらも含めた中で、このような結論を出したのだとは思いますが、私が議員活動を含めてこの流れを見ていた、聞いていた中で、もう少し住民に対して説明があってもいいのではという部分がありました。それで今回この結論を出してから、今説明にもありましたように約3年半過ぎているんですけれども、その中で町としては定住促進を促すということでお金をかけて子育て世代を呼び込む施策も行ってきました。確かに一気に子供の数が増えたわけではないんですが、ここ3年4年は横ばい状態。小さな波でいたい横ばいという状態が続いておりまして、そうした中で、今後の進め方についてこのまま一気に進めていいのかももう少し慎重に検討すべきではないかというのが私の考え方なんです。それに対して皆様の御意見をお伺いしたいと思います。私としてはこれまでの経緯の説明はいただきましたが、経緯の検証、地区への丁寧な説明、それからできれば説明をしたうえで一人でも多くの方に理解をしていただいて前に進んでいく。先ほども言いましたように長い間あった学校ですからそれが地区からなくなってしまうということは、地域の住民にとってはすごく不安、地域に対しての不安が大きいのではないかと思います。ただ、教育施設ですから主役は子供たちです。ですから大人のエゴで学校を残したり作ったりするのではなく、子供たちのことを十分に考えて学校運営というものは考えなくてはいけないものだと思います。そういうことを含めて皆さんの御意見をお伺いしたいのですが、御意見のある方がいたらお願いしたいのですが。決めたのだからこのまま進むべきだという、ちょっと時間はスライドするけれども1、2年、地域の声を聞きながら進めるべきではないかとか、その辺の考え方といいますか、いまさらというふうに思うかもしれませんが、私はもう少し時間をかけてじっくりと進めてほしいというのが私の今の気持ちなんですけれども。

#### 【教育委員】（大内委員）

今までの経過ではこのように私どもは理解してきましたし、今後想定スケジュールに基づいて行動していくという理解はしております。そのつもりでおります。ただ、これを最終的に決定するのは町長さんですよね。ですから町長さんの意向も当然入るべきだと私は思っています。何が何でもこのスケジュールでやれとは私は思っておりません。町長の命令で今後のスケジュールがどうというのは、私はあっていると思います。当然御心配のように小学校の統廃合というのはおらほの学校なんですね最後は、中浜小学校を廃校にすること自体、かなりのエネルギーを使って前教育長がやられたのですから、地元への説明、中浜小学校では賛否両論ありました。だから1校を廃校にするのは非常にエネルギーを要することだなということもあの時は実感しました。余計なことですが、私も高校の校長を4校経験しましてそのうちの3校はもうないんです。統廃合とか新しい学校にするための下準備をずっとさせられてきて、私が勤務

した消えてしまった3校のつぶし方をやってきたわけですが。個々の場合は地域性というか、同窓会、小中学校ではあまり強くないんですけども、同窓会がかなり抵抗を示すと。そのぐらいですかね。小学校の場合は地域のおらほの学校というのは最後まで残るんだらうと。これを丁寧に説明していかなければならない、丁寧に説明しても、頭でわかって気持ちでわからない、反対する方もいると思うんですよ。それを今の状況で私はいいいとは思いません。クラス的人数が一桁というクラスも、一桁ですよ。ましてや一人しかないとか。果たしてそれが正常なのか。子供たちの教育にいいのか、それでこの小学校の将来構想について教育長を筆頭に策定してきたと思うんですが。おらほの学校をなくすためには町長のお力が絶対的に必要であって、将来的に今のような状況では、大変じゃないかな子供たちが。一桁のクラスではかわいそうだなと私は思っているんです。そういう意味で私はこの基本方針で構わないと思うんですが、そこに町長の意向が入っても、入るべきなんだらうと思います。以上です。

#### 【教育委員】（菅野委員）

はい。今大内委員さんがお話しされたみたいにこれまで年月をかけてアンケートを取ったり住民の方々のお話を聞いてこのようなことが策定されてきたということ、それも一つ住民の方々の大きな声だと思えます。そして何回も委員会を重ねていただいて一つの方向が出たというところ、それはやはりこれまでの経緯の中で大切にしなければならぬことだというふうに思います。

しかし今回、町長選挙で橋元町長さんが今お話しされたことように慎重に検討をするという公約で当選されたということですので、慎重に検討という町長さんの公約のところはやはりきちんとやらなければならないことだと理解します。

今、大内委員さんもお話ししていましたが、私も山下小学校の出身です。自分の出身の学校がなくなるということはやはり心が少し寂しくなるということがあります。

ただ私も小学校3、5、6年やってきましたけれどもどこを見て、視点をどこに当てて考えるのか。やはり今の子供たち、学校というのはこれからもずっと続きますので、これからの子供たちの教育、それを最優先に考えるべきではないかなと思います。これまでの歴史、中学校も一つになりましたけれども、やはり坂元小学校と山下小学校の歴史、それから同窓生の方々、そういうところも歴史としてあるものですから、それは大切に、貴重なものですので尊重して。でも新たに今の中学校の子供たちにとってはある程度的人数がいて学習ができ、切磋琢磨でき、部活動もできるというような中学校の活動が活発にできるということが、子供たちの健全育成、未来を担う子供たちの教育に合うということで、中学校ということは大変良かったのではなかったのかなと。これから小学校のほうをこれからどういうふうに検討を加えるというふうな言葉ですけども、どういうふうな視点で、どういうような方向で検討を加えていくか。そして100パーセントの人がそれはいいよということは、それはないんだと思います。ですができるだけ多くの方の理解を得てやるべきかなと。小学校を私も長くやっ

てきまして、例えば5人、6人というところではなかなか球技とか学習にしてもグループ学習にしてもうまくいかないということで、やはりそこは少ないんじゃないんだろうかと。

私は45人学級もやってきました。45人というとなかなか目が届かなかったり、みんな子供たち1時間の中で見てやるということは、難しい。今は40人学級で1年生は30人ですけれども。これから文科省は35人学級を年次やってきますので、山元町の子供たちの人数、令和9年度のところを見ると35人以下のところの人数ですね。ということは少人数学級になっているということです。また見ると一桁または10何人とやはりもう少し人数がいたほうが、切磋琢磨みんなでいろいろできるんじゃないだろうか。それから一クラスですと行きますと、例えば1年生の時に人間関係が崩れてしまった。友達関係が崩れてしまった。なかなか回復するということが難しい。そうすると6年間そのまま同じような人間関係で行ってしまうデメリットもあるんじゃないかなと。

クラス替えができればその時その時でクラス替えをして良好な関係の中で進めるというメリットもあります。ですからメリットデメリット両方のことが、それぞれ考えられるということで、そういうところも加味しながら検討を進めていくというふうには思います。ですが最終的にどこを見るのか。町長さんお話しされたように、子供のことなんだろうと思います。であれば今の子供、これからの子供をまず考えなければならぬ。おらほの学校という私もそうですけれども、過去のことは当然そこには尊重する大切にする。ですが視点を当てるのは、子供たちの教育、より良い教育をどのように育てていくかというふうなところが大切なところではないかなと思います。以上です。

#### 【教育委員】（横山委員）

はい。私も皆さんと大体同じ意見なんですけれども、小中学校の再編ということで再編委員会ということで参加させてもらったんですけれども、今おっしゃった大内委員さん、菅野委員さんのおっしゃったこともすべて含めて1年以上かけて委員の皆さん、多くの方と、元PTAの方とか、地域の方とかいろんな委員さんいたんですけれども、その方たちと長い時間をかけて検討してきたんです。

それで私は未来志向で行かなければならないということが一番です。子供たちもいろんな子供センターとか坂元のはまっことか放課後児童教室とかいろいろかかわってきたんですけれども、人数が少なかったり、あるいは女子だけとか男の子一人とかになると坂元小学校から山下小学校に行きますとか、山一から山小にいきますとかいうの何人も、町長さんも御存じだと思っただけなんですけれども、何人かいらっしやったわけですね。いろんな若いお母さんたちにかかわってこれから学校どんなふうになるんでしょうねと新しい方は子供センターとかで一緒になるので、どんなふうになるんですかとかいろんな話しするんですね。大体これから一つになっていきますというふうにお話ししてきたんですね。確かに地域の学校ということも前も検討して、本当に様々

な意見を聞いて、大切だなと思ってはいたんですけども、私はこの計画を必ずそのままという絶対という意見ではないんですけども、この基本に沿って、やっていったほうが子供たちの未来、子供たちの教育ですかそういうことを考えまして、さっきの人数とか、そういう意味では時間はかかると思うんですけども、このような方針で行ったほうがいいのではという意見です。

**【教育委員】（古泉委員）**

私も同じような意見を持ちました。第一に町長さんもおっしゃられていた子供中心で考えていただきたいというのが保護者の立場からすると思います。10年後を見据えてということなんですけれども今1年生の子たちはこれはもうかからないですよ、小学校卒業してしまいますし。なるべく早く進めていただきたいと私は思っております。

今回の選挙の結果を見るとそういう意見ばかりでもないんだなとわかりましたので、もうちょっと丁寧な説明が必要だったのかなと、これまで関心がなかった方もこれで興味を持っていただいてもう一度町全体でいろんな意見を出して皆様納得して進めていければいいのかなと感じました。

**【教育委員】（大内委員）**

町長実は1月から3月中頃まで山元中学校の1年生に数学教えたんですよ。1年生に。案外、初めての統合した1年生、いわゆる山下中学校、坂元中学校という意識的なずれは感じられなかった。統合したことによっていわゆる山元中学校の子供になっているのではないのかと。二つ統合しても2クラスしかない。その上は3クラスになっているんですが、というのが実態なんです。一緒に山元中学校としてスタートした子供たちのわだかまりというものはまったくない。小学校についてはどうなのか。2、3年についてもそんなに話が出ているということは先生方の話で耳にしなかったですが。途中から一緒になったけれども違和感はないというふうに感じました。

**【教育委員】（菅野委員）**

私も新設校、別れての新しい学校づくりをやったり、近くで出してやって統合ということもありました。新しい学校ができるというと、子供たちは当然なんですけれども、保護者の方がやってきて、そして地域の方がやってきて、もう一つになって頑張ります。持っているそれ以上の力を子供たちが発揮したり、保護者の方も学校のためということ、今の山元町もそうですけれどもそういうふうな形で行きます。

ですからそれが一つになるか二つになるかは別ですけども新しい学校ができるというのはそこに素晴らしいエネルギーが出るというふうなことを経験をしてまいりました。

**【教育委員】（大内委員）**

最終的なネックは地域住民たちの学校に対する思いだけなんですよね。申し訳ないんですけども。こんなことをいっちゃまずいと、いいとは思いませんけれどもそれを払拭してもらわないと、事業はできない。おらほの学校というふうにならずにずっと思っていると非常に辛い。何もできなくなってしまいますので、今この4校の現状を考えるとなかなか厳しいところになってきているのではないのでしょうか。やはりこの方針どおり、町長の御意向でうまくやられるとしても、こういう方向で今までの検討委員会で検討してきたわけですから、やってもらいたいなというのが私の正直な思いです。

【議長】（橋元町長）

今言っていたとおりで、一番最初にも言われたんですけども教育委員会、子供たち中心とさっき言いましたけれども、子供中心ですからやはりそうなると思う。先ほどから出てきているおらほの学校、地域がかかわってくると、そこは教育委員会ではなくて私が、全責任を負うことになったわけですけども、重要な権限をいただいてあれなんですけれども、行政的な部分でその地域をどうしていくかを並行して考えていかなければならないのかなど。そうしないとなかなか地域住民の人たちのことを理解を得るといふこと。多分その人たちの単体として学校を考えるとそういうふうに思うのかもしれない。子供のためとか孫のためとか。ただ、地域全体を含めて考えてしまうとともとあって何十年とあったものが急にスポンと無くなる、というところの地区はどうなるんだという、そういう不安が来るんだと思うんです。地区を限定して申し訳ないですけども坂元であれば震災後に一気に人口が減ったために保育所はなくなって中学校はなくなって、小学校もなくなってとなると本当に核になるものがどんどんなくなってしまって、だからそういうふうな地区の人にとっては不安、そこが子供にも影響してしまう。今言ったように学校ね、違う角度からものを見てしまうから、というのもあると思うんです。ただ今言ったようにこのスケジュール、ここに出していただいたスケジュールを見ても、決してスパンが短く簡単に決めてしまおうというスケジュールでもないんですよ。あと6年、7年くらいのスケジュールになっている。そのぐらい時間がかかるだろうという予測の中での計画案なんだと思うんです。ですからこの間にどれだけ住民の方に理解していただけることができるかどうかだと思うんです。今皆さんの意見を聞いて早い段階でそういうふうにしてもらったら子供のためにいいだろうと、皆さんそうだと思うんですけども、そういう中においても慎重にもう一度地域の方々の意見をうかがって、段階を経て進めたほうが逆に早くいくのではないかと、早くいきたいとかそういうことではなくて、進めるにしても理解をもらわないで進めるとするとなかなか足踏みしたりして進みづらくなるのではないかなど。その辺で結局、小学校の再編についてはですねここにこうやって計画を出していただいたわけですが、結果として皆さんの意見は子供のためには早く一つにしてできるだけ、二クラスあるいは三クラスの中規模人数での教育にしたほうが子供たちのためなんだなという意見なんだなと思います。その進め方、今後の進め

方、その辺について、最終的にどのくらい時間がかかるかわからないですが、もう一つにするからこうなんですっていう説明ではなく、もう一度皆さんの意見を聞きたいというところからのスタートでいけないかなと私は思っているんですけども。やはり最初から計画通り進めたほうが。

**【教育委員】（大内委員）**

その辺については町長と教育長に詰めてもらって、我々が作ったというか了承したスケジュールはここに(4)以降のスケジュールですので、これに町長の御意向がどの程度反映してくるか、ここで議論しても仕方ないと思いますので、教育長と町長の段階でどういうふうに持っていくかということ。地域住民の意向は横山さん一回は聞いているんですよ。アンケートとか何とかで。

**【教育委員】（横山委員）**

聞いていますね。

**【教育委員】（大内委員）**

これから直接の話し合いをするという手順になっているはずなので、どういうスパンでやっていくのかは、町長、教育長の間で詰めていただければよろしいのではないかと。ただ最終的にはこれが少しずれこんだとしてもこうなってほしいなあと。私は山下第一小学校の卒業生なんだけど。たった一人のクラスがありますからね。見学に行きましたが、非常に先生も大変だなと。

**【教育委員】（菅野委員）**

はい。私もですね町長さんが公約で慎重に検討ということで当選されましたので、その点については慎重にお話を聞くということで当然よろしいんだろうと思います。ただそれをどのような方法で、やっていくのかというふうなことをかなり検討をしなければいけないのではないかと。

アンケートも取りましたし、お話も聞きましたし、では今回は形でお話を聞いて慎重に検討をするかという、すぐに結論を出すということではなく、まずお話を聞くという段取りをしていくのかというふうに思いますけれど。

**【教育委員】（横山委員）**

先ほど町長さんがおっしゃった地域住民の話ですが、私は外から来た人間なので、坂元地区、山下地区というような、坂元愛というようなものを検討委員会の時も感じられたんです。それは別に、私も故郷がありますし、そういうことは大切に、学校がそういう拠点になるというお話もあったんですけども、私は山元町ってどうしてこんなに人口が少ないのに、山元町を一つとして考えられないのがすごく強い意見でした。山元町ってそんなに人口が多いわけではないですし、大体こんな少ない人数で、震災

後もっと少ない人数なのに、山元町全体、町一つの住民の方の考えを一つにできないのかなど、正直言って疑問なんですね。もちろんその兄弟というのはわかるんですけども。だから全然取り払うということはもちろんできないです。長年住んで、私も40年以上になりますので、山元町愛というのはありますけれども、ただ一つの山元町として考えていかないと、こういう事業というのは絶対進まないと思いますし、地域住民の方といっても、今子供さんがいる保護者の意見、そちらの意見を重点的に聞いていかないと、住んでいる方の意見というのものもあるでしょうけれども、保護者の方とか子供たちの意見を中心に聞いていかないといけないなと思いました。

**【議長】（橋元町長）**

私も61ですけども、私の年代でも何十年前には地域差、ほっちだのこっちだのといったことはなくしましようということをやったんです。なので私もそう思うんです。ですからこういうことも掲げたんですけども、私も山元町自体大きな町じゃない、ですから町全体を一つとして考えるのが一番大事なことで。

**【教育委員】（菅野委員）**

私もその意見に賛成です。私も職場ずっと仙台だったので山元町は寝に帰るだけでしたけれども、どの学校を歩いても各地区、東西南北、仙台の荒浜とかいろんな地区があるんですけども、やはり一つにまとまるんですよその町というか。ですから山元町この小さな町で何も坂元・山下といってなくて坂元のほうも大事にする、歴史も大事にする、山下の歴史も文化も大事にする。全部一つにしてお互いに高めあっていくその考えが、山元町には必要ではないかな、大切ではないかなと思います。いつまでも坂元村・山下村というしぼりで、それは歴史的にあるのかもしれないけれども、やはり一つになって未来を向いてやっていくほうが山元町としてはよろしいのではないかと思います。

**【教育長】（菊池教育長）**

皆さんから出たお話、なるほどなと聞いていました。私、話し合いの前半で子供が教室に数人しかいない状態で授業しているイメージ思い浮かべたときに、そういう状態でいいのかなと、それが6年間続くというふうなことで、子供にとってどうなんだろうかと。それに近い形で今もいるんですけども。まずは子供優先で考えるべきということと、地域の学校というもの、どうしても対立しがちだと思うんです。それぞれどちらとも気持ちだとは思いますが、ただ、そこにそのことを実際に中心になった想像できる子供はいないんですよ。子供は自分がどういう状態にいるのかわからないで毎日生活しているだと思うんですね。そのことを周りの大人が考えてものを決めたりする必要があるかなと。おらほの学校という地域の年配の方々の気持ちもわからないのではないですが、逆にその方々には実際に少ない人数で生活している子供たちの姿というのを見てほしいなと思いますし、一方でやはり大人同士で見たときに地域

で学校が果たしている役割というのも小さくないので、おらほの学校というふうにどうしても言われる方々の気持ちもそれなりに考えなくちゃいけない。なかなかそのところが難しいところかと思いますが、今後のとこということでお話ししますと、町長は、町長になる前議員さんとしてこの学校の再編についてどんな検討をしたかということ、その内容経緯は聞いてこられて、改めて町長になるときに公約に掲げて当選されてきたということなんです、これまでの検討の経緯とか、方針の内容、先ほど横山さんおっしゃったように、検討委員会でどんなふうな意見が交わされてきたのかということも改めて町長に理解してもらおう時間というものも必要なのかなと思いました。

そしてそれを踏まえて今日、教育委員の皆さんがおっしゃった今後のことについて、考え方について、町長と教育委員会の間ですり合わせをしていく必要があるかなど。もともと去年の総合教育会議で確認したように、想定スケジュールが入れてありますが、今年度の前半は、地区を回って前に策定した方針はこうでしたよねという確認のための説明会、それに基づいて今後、小学校再編を進めていこうと思っているんですけどという、その時にはこういうふうに決めたんだからこうするんですけどという高飛車な姿勢ではなく、そうでなくても考え直せという声は出ると思っていたので、事務局のほうでは一回説明会したからそれだけじゃなく、そのあと何かしらフィードバックするということも考えなくちゃいけない、二回説明会をしなくてはならないかと想定していたんです。そのうえで、できれば今年の夏から説明会をして秋口までフィードバックして固まれば、町民の方の理解がある程度得られれば次の段階で検討委員会の設置というふうに、今年度の前半後半でできればいいなと思っていたんですが、それが、こちらの考えるとおりスムーズに行くとは限らないと引っかかっていたんです。ですから改めてそういう説明会、町民の方の意見を聞く説明会を設けなきゃいけないと思うんですが、そのことをどういうふうに進めるか。まずは町長との間で、これまで方針に至る策定の経緯と内容を町長に理解をしてもらって、それと同時に学校も動員していくと。先ほどいろんな声を聞くということがあったんですが、聞き方としては教育委員会としてこういうふうに決めたんですけどというのが前提だと思うんですよ。これからどうしましょうかというゼロベースでの投げかけではなく、教育委員会ではこういうふうに決めました、こうでしたよねというふうな前提として町民の方どうですかという聞き方なんですよ。

いやそこでなくてというという声出てくるでしょうし、それが全体として多いということになれば方針そのものの見直しということになってくると思うんですけども、どういうふうに進めていけば結論に達するかということには言えないんですけども。

すみません長々と。

今後のこととしてはまず役場内部で、教育総務課、私と町長の中でこれまで経緯を理解をしていただく時間を取って、同時に今後どういうふうにしていくかということも相談をして、教育委員の皆様にもその後の進め方についてお諮りをして、そして御理解得られれば、その方向でそのだいたいの動きをします。説明会をするなりなんなり

ということをやるということで、どうかなのと思ったんですけども。

【教育委員】（大内委員）

そうやって欲しい。4以降の話題についてはパスしてもいいのではないかと。今の話をもとにして今後の話を進めてもらいたい。

【教育長】（菊池教育長）

こちらでもともと考えていたことを少し形を変えることで。

【教育委員】（大内委員）

御破算にしてということではないですよ。この形で行って、修正が可能であれば、修正してもらってというレベルで教育委員会としては町長にお願いをせざるを得ない。

【議長】（橋元町長）

皆さんの意見は多分一致していますね。子供たちのためにはできるだけ早い段階で一つにしたほうがいいと。

【教育委員】（大内委員）

できるだけ早くではなくスケジュール通りで。来年からやれなどとは言わない。

【議長】（橋元町長）

多少のずれは、あとは私と教育長で進めてほしいということですね。

【教育委員】（大内委員）

最後は町長の腹決めです。

【議長】（橋元町長）

その部分が私も大きいと思うんです。地域の方々は学校とはまた違った部分が入ってきますので。

【教育委員】（大内委員）

教育委員会だけではこれは収まりません。

【議長】（橋元町長）

わかりました。そのような形で進めさせていただいてよろしいですね。

（「はい」の声あり）

小学校再編についてはそのような形で進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

【議長】（橋元町長）

次に、(3)町民体育館改修について、事務局から説明願います。

【事務局】（伊藤生涯学習課長）

はい。それでは御説明いたします。

お手元に資料3を準備いただきたいと思います。こちらは令和3年2月に発生しました福島県沖地震で被災しました町民体育館の改修工事について、御審議いただければと思います。

まず、1番、こういう改修工事に取り組むに当たりまして、町議会側への説明や右記載の関係団体との意見交換を行ってきたところでございます。その中で3に記載の長寿命化改修工事、耐震補強工事、災害復旧工事といった通常ベースの改修工事に加えまして、右側の青矢印の右側に記載の部分ですが、関係団体から御意見をいただいたうえでプラスアルファで取り組む部分として、施設のバリアフリー化、観覧席の新設、体育館駐車場の拡張に取り組んでいきたいと思っております。

詳細については二枚目のほうに記載してございます。まずは4番のほうの観覧席の設置です。現在のステージは高さがあるって利用しづらいとの意見もありまして、西側にありましたステージを撤去して階段状の観覧席を新設したいと考えております。約140席ほど設ける予定です。

ステージは体育文化センターとしての文化の部分の舞台とか披露する役割もありますが、使用頻度は低い状況になっております。特に交流センターと中央公民館に文化のほうの機能分担ができるということで、今後は町民体育館としての部分に重きを置きながら考えていければと考えております。

なお、観覧席の二つ目の図、もう少し観覧席を延ばせるのではないのかなというようにも見えらると思うんですが、観覧席の両端の壁は構造壁といまして建物を支える壁となっています。建物を支える壁として撤去はできないということで観覧席を考えている状況でございます。

続きまして5番目の老人憩の家跡地の活用ということで駐車場の拡張ということなんです。老人憩の家は老朽化や地震被害のため解体となりましたが、その跡地を利用してスポーツイベントやあるいは大会等の開催時に十分な台数を確保できる駐車場を整備するものです。右上の赤い箱の中ですが、これで45台ほど拡張できるものと思っております。

6番目、概算の工事費ですが4億9400万円となっております約5億ほどかかる見込みとなっております。

7番目、今後のスケジュールですが今度の6月議会で工事費の補正予算を計上しま

して、可決いただければ7月に臨時議会で契約の議決が認められれば8月から工事開始と、3月までに工事完了を見込み、令和5年度の5月ごろには開館をしたいと我々のほうでは考えています。こちらで説明を終わります。

【議長】（橋元町長）

事務局からの説明が終わりました。

この件について御意見などがあれば、お伺いしたいと思います。

【教育委員】（菅野委員）

ステージ取り払って観覧席を設けるというふうなことですが、とってもいいことだなと体育館を有効に使えるかなと思います。ただ140席だと1チームが20人だとすると7チームしか使えないです。できるだけそのところに観覧席が設けられれば有効に使えるのかなと考えました。ただこれから設計が変えられるか別問題ですが。観覧席の両脇の器具庫、今器具庫がありますので、新たに設置されるとすれば専門的ではないのでただ思っただけですが。

【事務局】（伊藤生涯学習課長）

壁自体が柱のような役割をしまして、建物自体を支えるようなイメージになっています。

【教育委員】（大内委員）

新たに壁取り払って柱で支えられればいい。

【教育委員】（菅野委員）

観覧席柱で支えているところは、どこでも体育館いっぱいあるので。そこをうまく使えれば。

【教育委員】（大内委員）

全面に観覧席あればいいんだね。

【事務局】（伊藤生涯学習課長）

そこまで改修してしまうとかなりの金額が必要になってくるかと。

【教育委員】（大内委員）

改修じゃなくて新しく建ててくれればいい。10倍かかるね。

【事務局】（伊藤生涯学習課長）

14億ぐらいに。工夫をしながら予算の範囲内で対応していきます。

【議長】（橋元町長）

御意見ありがとうございました。

ほかに御質問など無ければ、町民体育館の改修工事について、現在の計画通り進めることでよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

【議長】（橋元町長）

今年度中の完成計画ということで、タイトなスケジュールではありますが、よろしく願いいたします。

【議長】（橋元町長）

以上で、本日本日予定しておりました議題については以上となりますが、その他何かありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

【議長】（橋元町長）

本日は、貴重な御意見や情報交換ができ、大変ありがとうございました。委員各位におかれましても、引き続きの御活躍を御期待申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。

本日は大変ありがとうございました。

【事務局】（大和田教育総務課長）

はい。ありがとうございました。

以上を持ちまして、令和4年度 第1回山元町総合教育会議を閉会いたします。

大変ありがとうございました。